



平成25年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年6月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アルデプロ

コード番号 8925 URL <http://www.ardepro.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久保 玲士

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久保 玲士

TEL 03-5367-2001

四半期報告書提出予定日 平成25年6月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年7月期第3四半期の業績(平成24年8月1日～平成25年4月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年7月期第3四半期	2,822	1.1	△350	—	△379	—	3,514	—
24年7月期第3四半期	2,792	—	△1,600	—	△1,626	—	△1,127	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年7月期第3四半期	350.37	—
24年7月期第3四半期	△112.68	—

(注1)平成24年7月期第1四半期より非連結となったため、前年同四半期との増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年7月期第3四半期	44	△828	△1,862.9	△2,412.90
24年7月期	3,160	△4,342	△137.5	△2,771.67

(参考) 自己資本 25年7月期第3四半期 △830百万円 24年7月期 △4,344百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	—	—	—	—
25年7月期	—	0.00	—	—	—
25年7月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年7月期の業績予想(平成24年8月1日～平成25年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,822	△12.9	△400	—	△446	—	3,472	—	346.09

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年7月期3Q	10,036,871 株	24年7月期	10,023,508 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

25年7月期3Q	— 株	24年7月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年7月期3Q	10,030,445 株	24年7月期3Q	10,002,350 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

(A種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	—	—	0.00	0.00
25年7月期	—	—	—		
25年7月期 (予想)				900.00	900.00

(B種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	—	—	0.00	0.00
25年7月期	—	—	—		
25年7月期 (予想)				900.00	900.00

(C種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	—	—	0.00	0.00
25年7月期	—	—	—		
25年7月期 (予想)				11.10	11.10

(D種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	—	—	0.00	0.00
25年7月期	—	—	—		
25年7月期 (予想)				11.10	11.10

(E種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	—	—	0.00	0.00
25年7月期	—	—	—		
25年7月期 (予想)				1.90	1.90

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、世界景気が減速するなか東日本大震災からの復興需要もあり、下げ止まりの兆しがみられます。さらに、平成24年12月の新政権誕生を契機にデフレ脱却に向けた金融緩和と景気回復のための政策効果への期待感から、円高修正や株価の上昇などにより、景気回復のマインドが高まりつつあります。

当社が属する不動産業界におきましては、首都圏の中古マンションの成約件数は平成24年3月から前年同月比プラスを継続し、平成24年8月に前年同月比0.2%減と若干のマイナスとなったものの、その後はプラスを維持し、特に平成25年2月は前年同月比13.6%増、3月は同13.0%増、4月は同18.7%増と2桁増で推移しております。

一方、東京都心5区のオフィス空室率は平成24年6月の9.43%をピークに平成25年4月には8.54%へ低下しておりますが、平均賃料は平成24年7月以降下落傾向が継続しており、オフィス市況はまだら模様をみせております。

このような環境下、事業再生ADR手続の対象となる不動産物件の販売に注力するなかで、当第3四半期累計期間におきましては、当社保有の大型物件に対する引き合いがあり、価格面で折り合いをつけて売却いたしました。

こうしたことから、当第3四半期累計期間における不動産売上高は27億6百万円となりました。ただ、売却不動産について買主との交渉の結果簿価を切り下げ、売上総利益はマイナスとなっております。一方、不動産賃貸収益等事業の売上高は当社保有不動産の売却に伴い保有不動産が減少し、受取賃料も減少して、1億16百万円となりました。なお、当社保有不動産の売却に当たっては金融債権者とも交渉し、売却代金から支払いきれない借入金の残代金について債務免除を受け、当第3四半期累計期間においては、38億95百万円の債務免除益を計上しました。その他、特別損失として投資有価証券売却損1百万円を計上しました。

以上の結果、売上高は28億22百万円（前年同期比1.1%増）、営業損失は3億50百万円（前年同期は16億円の営業損失）、経常損失は3億79百万円（前年同期は16億26百万円の経常損失）、四半期純利益は35億14百万円（前年同期は11億27百万円の四半期純損失）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

#### (不動産再活事業)

事業再生ADR手続の対象となる不動産物件について買い手側と価格面での折り合いをつけ売却を促進してきた結果、当第3四半期累計期間における売上高は27億6百万円（前年同期比9.7%増）となりました。ただ、簿価を下回る価格で売却した不動産物件もあり、売上総損失を計上し、営業損失は1億87百万円（前年同期は15億1百万円の営業損失）となりました。

#### (不動産賃貸収益等事業)

当事業においては当社が保有する不動産物件からの受取賃料を計上しておりますが、保有物件の売却により保有物件数が減少し、受取賃料の額は減少しております。この結果、当第3四半期累計期間における不動産賃貸収益等事業の売上高は1億16百万円（前年同期比64.1%減）、営業利益は48百万円（前年同期比68.9%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### ① 資産、負債および純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間における総資産は44百万円となり、前事業年度末比31億15百万円の減少となりました。これは、主に当社保有物件の売却により販売用不動産が27億3百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間における負債の部は、8億73百万円となり、前事業年度末比66億29百万円減少しております。これは、金融機関からの借入金を返済したことや債務免除により、前事業年度末に比べて短期借入金が58億72百万円、1年以内返済予定の長期借入金が76百万円、長期借入金が98百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間における純資産は、当第3四半期会計期間において四半期純利益を35億14百万円計上したものの、債務超過を解消するには至らず8億28百万円の債務超過（前事業年度末は43億42百万円の債務超過）となっております。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成25年7月期第3四半期の売上高は28億22百万円、営業損失は3億50百万円、経常損失は3億79百万円、四半期純利益は35億14百万円となりました。平成25年5月から平成25年7月にかけての不動産売上高については現在のところ売却見込みがないため、通期の売上高は28億22百万円となる見通しです。営業利益、経常利益については、平成25年5月から平成25年7月にかかる費用を見込んで現状の予想数値としております。当期純利益については、平成25年5月から平成25年7月にかかる費用と平成25年5月に発生した債務免除益25百万円を織り込み34億72百万円を見込んでおります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、前事業年度まで5期連続で営業損失、経常損失を計上し、当第3四半期累計期間においても、3億50百万円の営業損失、3億79百万円の経常損失を計上しました。また前事業年度に44億69百万円の当期純損失を計上して43億42百万円の債務超過に陥りました。当第3四半期累計期間は35億14百万円の四半期純利益を計上したものの債務超過を解消するまでには至らず、債務超過の額は8億28百万円となっております。さらに、事業再生ADR手続の中で全金融機関との間で合意した債務弁済計画案の一部について変更を余儀なくされている状況にあります。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消すべく当社は次の施策を実施しております。

- ① 事業再生ADR手続の対象となる不動産の売却がすべて終了したことから、当社は今後人員を拡充し、新規物件の仕入れ、販売にエネルギーを注力する方針です。

- ② 金融機関に対して平成24年7月末に弁済予定であった債務について、支払時期の繰り延べを要請しましたが、平成25年7月期第1四半期累計期間において弁済しております。
- ③ 平成24年7月に希望退職者の募集を行った結果、当社の従業員数は平成25年4月30日現在5名となっております。これによる固定費削減効果は年間30百万円を見込んでおります。その他の販売費および一般管理費についても事務所賃貸面積の縮小などにより一層の削減を進めてまいります。
- ④ 当社は平成25年7月期末までに債務超過を解消しなければ株式会社東京証券取引所が規定する上場廃止基準に抵触することから債務超過の解消策について検討しております。解消策が決定した場合は速やかに発表する予定です。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年7月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	131,002	6,414
販売用不動産	2,703,174	—
預け金	80,127	1,282
その他	5,172	3,817
流動資産合計	2,919,478	11,513
固定資産		
投資その他の資産		
差入保証金	7,500	7,500
敷金	25,186	25,150
破産更生債権等	200,000	200,000
その他	208,217	410
貸倒引当金	△200,000	△200,000
投資その他の資産合計	240,904	33,060
固定資産合計	240,904	33,060
資産合計	3,160,382	44,574
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	6,172,555	300,000
1年内返済予定の長期借入金	111,982	35,493
未払金	283,588	354,198
未払費用	388,274	60,844
未払法人税等	1,210	907
その他	329,258	3,978
流動負債合計	7,286,868	755,422
固定負債		
長期借入金	191,969	93,371
退職給付引当金	3,639	4,285
長期未払金	19,931	19,931
固定負債合計	215,540	117,588
負債合計	7,502,409	873,010
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	300,000	100,000
利益剰余金	△4,644,695	△930,371
株主資本合計	△4,344,695	△830,371
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△96	—
評価・換算差額等合計	△96	—
新株予約権	2,764	1,934
純資産合計	△4,342,027	△828,436
負債純資産合計	3,160,382	44,574



(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年4月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年8月1日 至平成25年4月30日)
売上高	2,792,188	2,822,656
売上原価	4,017,941	2,895,691
売上総損失(△)	△1,225,752	△73,034
販売費及び一般管理費	375,161	277,040
営業損失(△)	△1,600,914	△350,075
営業外収益		
受取利息	2,041	12
受取配当金	115	—
受取手数料	14,974	451
貸倒引当金戻入額	20,899	—
解約損失引当金戻入額	10,000	—
雑収入	198	24
営業外収益合計	48,229	488
営業外費用		
支払利息	66,674	24,645
その他	7,575	5,267
営業外費用合計	74,249	29,912
経常損失(△)	△1,626,934	△379,499
特別利益		
債務免除益	473,052	3,895,209
未払金戻入益	27,000	—
新株予約権戻入益	705	829
特別利益合計	500,758	3,896,039
特別損失		
投資有価証券売却損	—	1,305
特別損失合計	—	1,305
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△1,126,176	3,515,234
法人税、住民税及び事業税	919	910
法人税等合計	919	910
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,127,096	3,514,324

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社は、前事業年度まで5期連続で営業損失、経常損失を計上し、当第3四半期累計期間においても、3億50百万円の営業損失、3億79百万円の経常損失を計上しました。また前事業年度に44億69百万円の当期純損失を計上して43億42百万円の債務超過に陥りました。当第3四半期累計期間は35億14百万円の四半期純利益を計上したものの債務超過を解消するまでには至らず、債務超過の額は8億28百万円となっております。さらに、事業再生ADR手続の中で全金融機関との間で合意した債務弁済計画案の一部について変更を余儀なくされている状況にあります。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消すべく当社は次の施策を実施しております。

- ① 事業再生ADR手続の対象となる不動産の売却がすべて終了したことから、当社は今後人員を拡充し、新規物件の仕入れ、販売にエネルギーを注力する方針です。
- ② 金融機関に対して平成24年7月末に弁済予定であった債務について、支払時期の繰り延べを要請しましたが、平成25年7月期第1四半期累計期間において弁済しております。
- ③ 平成24年7月に希望退職者の募集を行った結果、当社の従業員数は平成25年4月30日現在5名となっております。これによる固定費削減効果は年間30百万円を見込んでおります。その他の販売費および一般管理費についても事務所賃貸面積の縮小などにより一層の削減を進めてまいります。
- ④ 当社は平成25年7月期末までに債務超過を解消しなければ株式会社東京証券取引所が規定する上場廃止基準に抵触することから債務超過の解消策について検討しております。解消策が決定した場合は速やかに発表する予定です。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表には反映しておりません。

(4) セグメント情報等

前第3四半期累計期間(自 平成23年8月1日 至 平成24年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	合計
	不動産再活事業	不動産賃貸 収益等事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,468,095	324,093	2,792,188	—	2,792,188
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,468,095	324,093	2,792,188	—	2,792,188
セグメント利益又は損失(△)	△1,501,044	156,096	△1,344,948	△255,966	△1,600,914

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△255,966千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費(全社費用)であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 平成24年8月1日 至 平成25年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	合計
	不動産再活事業	不動産賃貸 収益等事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,706,342	116,314	2,822,656	—	2,822,656
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,706,342	116,314	2,822,656	—	2,822,656
セグメント利益又は損失(△)	△187,344	48,564	△138,780	△211,294	△350,075

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△211,294千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費(全社費用)であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。